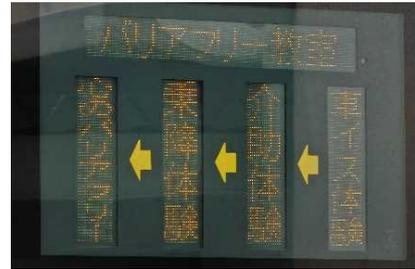


◆ 姫路市立神南中学校でバリアフリー教室を開催しました

神戸運輸監理部交通みらい室では、兵庫県内の小中学生を対象にバリアフリー教室を開催しており、自ら高齢者や障害者の疑似体験や介助体験をすることで、バリアフリーの必要性を理解するとともに、ボランティアに関する意識を醸成し、誰もが高齢者や障害者に対して自然に快く「お手伝いしましょうか」と声をかけてサポートのできる「心のバリアフリー」を推進しています。

今回は、令和6年5月20日（月）と6月3日（月）に、姫路市立神南中学校において、1年生56名を対象にバリアフリー教室を開催しました。

バリアフリー教室は二日に分けて行われ、一日目は座学、二日目は視覚障害疑似・介助体験、車いす体験、ノンステップバスの乗降体験などの体験学習を実施するとともに、視覚障害当事者の方にドイツ訪問時の体験についてお話しいただきました。



【神姫バス案内板】

座学の授業では、高齢者や障害者といった方が生活する上での障壁（バリア）について、そしてそのバリアを取り除くバリアフリーの取り組みや、その大切さについて学びました。

生徒はバリアフリーに関するクイズを楽しんだり、知らなかったことに驚いたりしながら授業を受けている様子で、バリアフリーについて考えるよいきっかけとなったように思います。



【点字ブロック体験の様子】

二日目の視覚障害疑似・介助体験では、アイマスクを着けて白杖を頼りに校舎内を歩行しました。

点字ブロックや介助の有無による歩行のしやすさの違いを体験するとともに、段差や狭い通路における介助の難しさを体験しました。

歩き慣れている校舎内でも、目が見えない状態だとやはり多くの生徒が不安を感じている様子で、「介助者の腕をつかんでいるだけでも少し安心できた」という感想もありました。

また、「目が見えない状態だと、『もう少し先で…』よりも『あと〇歩で…』と言われる方が安心できるし、分かりやすいように感じた」、「体験を通して視覚障害の方の気持ちを少しでも感じることができた」といった感想もありました。



【段差体験の様子】



【バス乗降体験の様子】

バスの体験学習は、神姫バス株式会社の協力を得て実施しました。

神姫バス株式会社のスタッフが講師となり、バスにあるバリアフリー設備の説明をしていただきました。また生徒同士のペアによる車いすでのバスの乗降体験も行いました。

生徒からは、「様々な場所に降車ボタンがあるのには意味があったんだと知り、驚いた」、「降車時はゆっくり降りなければ、車いすに乗っている人はとても怖い思いをすると分かった」等の感想がありました。

体験学習の後、視覚障害の当事者である姫路市視覚障害者福祉協会の榎（はりのき）さんに、ドイツでの体験をお話しいただくとともに、生徒からの様々な質問に答えていただきました。



【榎さんのお話の様子】

「ドイツでは障害を『個性』として捉える人が多く、困っている人を自然と助ける習慣がある」、「日本は道路や施設等のハード面のバリアフリーはとても優れているが、心のバリアフリーはドイツの方が大きく前進している」と話されていたことが印象的で、日本のバリアフリーに足りない部分について知ることができました。

生徒からは、「障がい者に対して違う接し方をするのはよくないと思った」「心のバリアフリーを広げていくことが重要だと思った」等の感想がありました。

また生徒からの質問に対し、榎さんは終始明るく、丁寧に答えていました。日本とドイツの違いについては、「ドイツは日本と比べて交通機関間の動きがシームレスで、快適だった」と答えられました。

日常生活に関する質問については、「目が見えなくても料理ができ、以前は天ぷらも作ることができた」、「視覚障害者用のアプリを活用することでスマートフォンも使うことができる」などの回答をされ、生徒たちは驚いている様子でした。



【榎さんへ質問する様子】

本教室で、生徒は介助方法を学ぶとともに、当事者の立場で考えることの大切さを学ぶことができたように思います。また、当事者である榎さんの視点から日本とドイツのバリアフリーについて聞くことができ、生徒にとって貴重な体験になったように思います。

交通みらい室では、今後も様々な取り組みにより、「心のバリアフリー」の推進を図っていきます。

(企画推進本部 交通みらい室)